

令和5年度 第1回 海岸工学委員会 幹事会 議事録

開催日時：2023年9月11日（月）14:00-17:00 土木学会 A 会議室+ZOOM 会議

出席者：森委員長、渡部副委員長、北野幹事長

川崎、内山、荒木、中條（遠藤代理）、山城、安田、越村（各小委員長）、下園、木原、渡辺、保坂、大井、有働、西畑、嶋原、加藤、原田、田島、有川、越村、高川

議事録：高川、北野

資料：

- ・令和5年度海岸工学委員会幹事会議事次第（資料1）
- ・事前回覧資料（研究小委員会・研究会活動報告）（資料2）
- ・事前回覧資料（土木学会論文集編集委員会編集調整会議議事録（案））（資料3）

議事：

■前回議事録の確認（WEB 公開済）

- ・前回幹事会の議事録を確認した。

■第70回海岸工学講演会論文審査（山城，下園，北野）

- ・下記の通り第70巻の報告があった

第1段審査 登録論文数：221編、通過論文数：200編

第2段審査 通過論文数：158編（不採択1編、辞退0編）

第2段審査以降 通過論文：155編（不採択2編、辞退1編）

※海岸工学講演会での発表数：200編（本論文あり155編、要旨のみ：45編）

※前年より27編減っているが、APACとの共催の影響と思われる

- ・JSTAGE作業について

担当業者に最終原稿 PDF を提出し、論文フォーマットのチェックを依頼したこと、JSTAGE 公開は例年通り 11 月初旬の見込みであること、日本語論文は土木学会論文集 Vol.79, No.17 特集号（海岸工学）に、英語論文は Journal of JSCE の No.2（固定）に掲載される予定であることが報告された。

- ・論文フォーマットの変更

日本語の引用文献に英文を併記することやそれに伴うページ数の変更があったが、大きな混乱はなかったことが報告された。

- ・システムからのメールが届かない問題について

サーバーセキュリティ対策特命 WG によるサーバー移行により問題が解決されたことが報告された。

- ・投稿中論文の引用について

投稿規定に投稿中の論文は引用してはならないとあるが、この規定を査読のためと捉えるか、読者のためと捉えるかで解釈が分かれる。これまで認められてきた経緯もあるため、今回は不問とし、最終原稿提出時に掲載が決まっていれば反映するように指導したこと。今後については、論文集編集小委員会で方針を検討することが報告された。

・論文題目や著者情報の変更について：第1段投稿から基本的に変更不可としているが、途中で連絡なく変更されるケースがあり確認・修正に手間を要する（特に学生・留学生など）ため、周知が必要であること、新システム・体制に合わせてルール・あり方についても検討することが報告された。

・著者負担金と論文集 DVD 価格

業者変更にともない JSTAGE 掲載料が 1.5 倍に値上がりしたこともあり、論文掲載＋発表、要旨論文＋発表の負担金の見込みが従来案から 5000 円値上げしてそれぞれ 40000 円、25000 円となること、さらなる増額はできる限り回避することが報告された。さいわいにも、企業からの広告の申し出があり、サポートいただいていることに感謝しています。質疑は以下の通り。

—多数投稿した場合に割引はあるか？⇒ない。

—題目変更のあり方について具体的にどのように検討するのか？タイトルや著者が変更できないルールとなっているのはシステム入力、JSTAGE、プログラムなどで情報を統一するためと思うが、プログラムは最終的な題名から抽出する方法もある。そもそも変更できないようにしたのは、過去にタイトルだけを先に登録していた時期があり、最初に投稿されたものと次に投稿されたものが、同じ投稿とわからないくらい変更される例があり、管理が大変なのでタイトルは変えないようにしようと決まった。⇒タイトルが変わっても Editorial Manager では固有の ID で管理されるので管理上の手間はかからない。プログラムを編成する立場からは 7 月には著者、題目が決まってほしい⇒軽微な変更であればプログラムと完全に一致していなくても良いことを皆さんに納得いただければさいわいです（プログラム掲載時に、その旨、お断りをいれるなどの対応をしたい）。

—査読意見でタイトルの変更意見があった場合は変えても良いのか？⇒主査了承のもと変更可能。ただし、主査から CEC に変更について連絡すること。

■論文賞、奨励賞の選考について

・選考方法およびプロセス等について説明があり、受賞者の候補が報告された。この結果について委員会に報告し、メール審議を実施する予定であることが報告された。

・受賞論文はプログラムに明示する。

・受賞者のスピーチは開会式の時間的制約も考え今後検討する（閉会式に行う宣伝を開会式に案内して、閉会式にまとめておこなうことで、開会式の時間不足を回避することとした）。

質疑は以下の通り

ースピーチの時間はとれないのか？⇒開会式のあとに同じ会場で APAC の開会式が行われるため、時間的制約がある。

ー開会式では受賞論文等の紹介のみをして、閉会式でスピーチの時間をとれば良いのでは？⇒検討する。

■第 70 回海岸工学講演会の準備状況について（原田，田島）

実行委員会：後藤委員長（京大）、森・志村・宮下（京大防）、原田・五十里・清水（京大）、荒木・佐々木（阪大）、遠藤・中條（大阪公立大）

後援：国土交通省近畿地方整備局、京都府（対応済み）、京都市（今後依頼）

日程：2023 年 11 月 14 日（火）～17 日（金）

会場：京都テルサ（京都市南区） 京都駅から徒歩 15 分

※講演会+APAC2023 同時ハイブリッド開催、懇親会・見学会なし

以下の説明・報告があった。

- ・ハイブリッド開催である
- ・安定したハイブリッド会議ができる環境を整備するため回線工事を行う。予算 97 万円を計上
- ・発表会場として 4 部屋と事務局用に第 10 会議室を予約、経費削減のため委員会室のための部屋は予約していない。
- ・アルバイト代を 72 万円計上しているが少し増える可能性がある。
- ・委員会の弁当代を 35 万円計上しているが、部屋を取らないため、小委員会は開かないようお願いする。弁当代の減額分はアルバイト代等に充てる。
- ・HP に記載のとおり、ノート PC とポケット WIFI とハウリング防止のためイヤホンを持参いただきたい。
- ・ホールは基本的に APAC で使い、海岸工学講演会で使うのは開会式と閉会式のみ
- ・前日シンポジウムで 3 つの企画セッションが予定されていると伺った。そのうち 2 つはハイブリッド、1 つはオンサイトのみと伺っている。会議室付帯設備費として 1 部屋につき 2 万円程度がかかる見込み
- ・企業展示は 2 回のホール展示ギャラリー、最大 10 社程度
- ・企業展示には机が必要、1 日 1000 円程度
- ・海岸工学委員会ではお弁当を提供する
- ・打合せができるような部屋を可能であれば追加で予約したい。
- ・会場には発表者用と司会者用の 2 台の PC を設置し、工事を行った安定的な回線に接続する。
- ・それ以外の個人 PC については会場の回線ではなく、各自のポケット WIFI 等で ZOOM にアクセスいただく。
- ・質問時は ZOOM 上で挙手し司会者がその状況みて当てるようにする。

・質問者はマイクのミュートを外して発言する。ヘッドホンをしているからハウリングの心配はない。

質疑は以下の通り

ー外部から司会を担当可能か？⇒可能だが、できる限り現地で司会いただきたい。

ー会場にスクリーンはあるのか？⇒ある

ーPCを持ってこない人もいるのでは？⇒オーディオインターフェースを業者に頼むことは予算的に難しいため、不可である。自前で用意することを考えているが動作保証できないため、あくまでPCを持参いただき、各自のWIFIに接続いただくことを基本として案内したい。

APAC2023 について以下の報告があった。

・早期登録は8月30日までで35000円、以降は50000円

・JTBの登録システム利用料130万円

・回線費用は123万円と少し安くなる見込み

・総費用は620万円ほど、270名の登録があったため大幅な赤字はない見込み

・投稿状況：

アブストラクト投稿291編、アクセプト287編

プロシーディングス投稿105編

アブスト+口頭発表182編

発表者としてのレジストレーション216名(プロシーディングあり104名、なし112名)

一般のレジストレーション59名

・管理料金差し引き後の収入はおよそ660万円(支出とほぼバランスする予定)

・APACの開会式の前に海岸工学講演会の開会式を、APACの閉会式の後に海岸工学講演会の閉会式を行う。

・開会式の挨拶は青木先生、閉会式は佐藤先生にお願いする

・カウンシルミーティングは17日の昼休み実施予定。1時間程度。

・ハイブリッドの構成は講演会と同様

・海外から来られるかたが、イヤホン、ポケットWIFI、ノートPC持参という部分を守っていただけるか不安がある

・3階はAPAC、2階は講演会というようにフロアを分けており、講演会参加者がAPACの会場に紛れ込むことが絶対にないように配慮した。

質疑は以下の通り。

ー発表者は現地参加でなくとも良いのか？⇒ハイブリッドなので、発表者もオンラインでもかまわない。日本に来られなくなる場合もあるので、オンラインでの発表を可能にしてい

る。

ー現地で発表する際は登壇するのか？P Cに向かって話すのか、マイクに向かって話すのかまだ確定できない。

ーマイクはあるのか？あるにはあるが、ハウリングの管理が難しいので設置しない方向で企画している。前日シンポジウムでのマイクの利用等は運営担当者に任せる。

ーZOOMの管理者側で発言者以外のマイクを強制的にオフにしておけばハウリングしないのでは？⇒ノートP Cのスピーカーが鳴るとハウリングする。スピーカーは管理者側でオフにできないためイヤホンでの視聴をお願いしている。

ーチャットでの質問はどうか？目が届かないことが懸念されるのでできるだけチャンネルは絞りたい。基本は挙手機能を使うということにできればと思っている。

ー司会はオンラインでも良い？去年実は司会者が会場に来られなくなり追加で現地にいる方をお願いしたが、1人だけオンラインでやった例があった。A P A Cはビザが下りずにキャンセルになる人が出る可能性がある。司会が来られなくなった場合に頼めるような人を少し確保しておくことも必要かもしれない。

ー不安定な個人回線で接続することで、ZOOM会議全体や他の利用者に悪影響を及ぼすことはないか？⇒ZOOM会議全体や他の利用者への影響はないと考えている。

ー会場に来れば最悪オフラインでも聞けるのか？⇒聞ける。質問も大きな声で話せば発表者のマイクで拾える。

ー司会者がリピートしたり、質問者が司会者のP Cの近くで質問したりする方法もあるのでは？⇒教員で会場に機材を持ち込んでテストしたりした感じではうまく動作していたが、大勢人がいるときにどうなるのかわからない部分があるが、なんとかなるのではないかとと思っている。

ー開会式・閉会式が講演会とA P A Cで連続することになるが大丈夫か？⇒追い出すことはしにくい。いっそ合同にしてもいいのではないかと。⇒検討する。

ー閉会式にて次回の講演会の紹介をするが、実行委員長が良いか？⇒実行委員会のどなたでも構わない。

ー会場費 150 万は委員会の方で支出という予定だったが、A P A C会場費として支出済みなので、経費として計上しておいて欲しい。回線工事費などを委員会の費用として支出するなど検討いただきたい。

ー登録費から引かれる管理費3割のうち1割は消費税である。

ー海講3日間通して集まっているので、セッション中でも会議室を1つくらい取っておいたら良いのではないかと⇒30名くらいの部屋を1つ予約しておく。

ーAPACのキーノートは講演会参加者も聞くことができる。

■第71回海岸工学講演会の準備状況について（渡辺）

実行委員会：

アドバイザー： 松富英夫、佐々木幹夫

委員長：田中仁

委員：今村文彦、越村俊一、有働恵子、サッパシー アナワット、マス エリック、小笠原敏記、松林由里子、菅原景一、三戸部佑太、門廻充侍、平川知明、齋藤憲寿、渡辺一也

日時：2024年11月6、7、8日（5日は前日準備）

会場：公共施設で開催、講演会は1会場（アトリオン）、委員会等にはぎわい交流館 AU で対面による開催

懇親会：ANA クラウンプラザ（交渉中）

見学会：実施予定

- ・アトリオンは仮予約済み、委員会の開催状況により AU を併用する

以下の報告があった。

- ・門廻委員（秋田大）を追加
- ・現地視察の結果講演会場はアトリオンのみで確保可能であることが確認できた。
- ・アトリオン音楽ホール 700 人、アトリオン多目的ホール 200 人、ミニコンサートホール 100 人、研修室 AB100 人、研修室 CD100 人を第一～五会場として利用する計画
- ・小委員会にはぎわい交流館を併用
- ・一部プロジェクターがない部屋があるのでレンタルが必要 21 万円ほど
- ・会場費は 211 万円ほど
- ・現場見学、秋田河川国道事務所へ要請済み、東北地方整備局にも協力を要請予定
- ・秋田コンベンションへ補助依頼中 1 名あたり 1 0 0 0 円
- ・後援について秋田市と秋田県に対して確認中
- ・対面のみで開催

質疑は以下の通り。

— 40 人の会場があるが大丈夫か？ ⇒ 100 人となっている資料もある、おそらく 100 人が正しいと思うが収容人数を再確認する

— 閉会式が APAC と合同開催になるかもしれないので、秋田の魅力をぜひ伝えていただけるとありがたい。⇒ 承知した（幹事会の後日にて、田中仁先生に閉会式を担当いただくことになったことの連絡が渡辺先生からありました）。

■ 第 58 回水工学に関する夏期研修会(Bコース)開催について（渡部）

主催：公益社団法人 土木学会（担当：水工学委員会、海岸工学委員会）

期日：2023 年 8 月 31 日（木）～9 月 1 日（金）の 2 日間（A,B コース並行開催）

会場：北海道大学工学部（北海道札幌市北区北 1 3 条西 8 丁目）

A コース：工学部 B 3 1 講義室

Bコース：工学部 B3 2 講義室

参加者：Aコース 53名（内、学生 6名）、Bコース 59名（内、学生 10名）

実施状況について以下の報告があった。

- ・札幌効果でもっと参加者が伸びると思ったが、それほどでもなかった。
- ・観光シーズンでかなりホテルも高く、そういった問題もあったかもしれない
- ・Google フォームでアンケートを実施した。委員会できちんと報告する予定だが速報値を紹介する
- ・参加者は道外が多く、研修会を知ったきっかけはメーリングリストが多かった。
- ・参加してよかったかという問いかけにはとてもよかったとよかったが大半であった
- ・国際化というこれまでと違う切り口であったため心配していたが、全体的に好評だった
- ・完全対面での開催について：7割は良かった、25%がオンラインやオンデマンド併用が良かったとの回答
- ・対面開催で良かったが、エアコンがなく暑かったのがつらかったとの意見あり
- ・質問の受付として slido を使いチャット形式でリアルタイムに質問が入るという形を試したがほとんどの方は良かったと回答、質問は最後にまとめた方が良いという意見もあった
- ・懇親会：ほとんどが良かったという回答であった。
- ・今後の改善点など：空調が欲しかったという意見多数。充実した講義内容で満足という意見も
- ・今後取り上げて欲しいテーマ：過去にもやっているものだが、災害調査や気候変動関係の動向、論文の書き方などが挙げられていた。

■第 59 回水工学に関する夏期研修会(Bコース)開催について（中條（遠藤代理））

7月18日に担当者会議（山口（京大防災研）、遠藤（大阪公大））があり、下記について確認したことが報告された。

【テーマ】 「水工学分野に関するモニタリング技術」

【開催日時】 2023年8月下旬～9月上旬

第1候補：9月12（木）、13（金）（幹事会にて審議後、確定）

第2候補：9月 9（月）、10（火）

第3候補：8月26（月）、27（火）

※土木学会全国大会：9月2日（月）～6日（金）

※水文水資源学会： 9月4日（水）～5日（木）

※日本自然災害学会学術講演会：9月16日以降で検討中

※土木情報学シンポジウム：9月最終週の木、金

【会場】 大阪公立大学杉本キャンパス

- 【開催形式】 対面のみ（第58回と同様、オンデマンドも実施しない）
- 【担当者】 Aコース：山口（京大防災研）、○佐山（京大防災研）
Bコース：遠藤（阪公大）、○中條壯大（阪公大）
○サポート 土木学会（事務局）：那須さん
学生アルバイト（運営、会場準備、誘導など）：阪公大で手配
- 【参加人数】 Aコース：120名、Bコース：120名
- 【参加費】 一般：16,000円、学生：10,000円
- 【運営スケジュール】

7月～9月：第58回水工学に関する夏期研修会（北海道）参加、学会関係者と連絡

10月～1月：第2回担当者会議（内容と講師の検討）、講師への依頼、会場手配

2月～3月：講師への原稿執筆依頼（6月末が最終締め切り、題目は先にもらう）

4月～5月：プログラム作成、予算計画・人員配置・開催詳細計画・人員確保、
学会誌7月号会告記事作成・提出

6月：CPDプログラム申請、Web事前申込ページ、委員会・HPへの周知

7月：テキストの編集右、申込受付、「ちょっとだけなか見」準備

8月：講師旅費・謝金手続き、当日業務説明、テキスト配布

9月：本番、残務処理

10月：報告書の作成、実施報告

【メモ】講師のイメージ

A、B共通（2名）

- ・ 観測機器、最新の観測（AI、リモセン）、リアルタイムモニタリングなど
- ・ 国交省のモニタリングポスト

Aコース（3名）

- ・ 河川、淡水域のモニタリング
- ・ 災害関連、流量、水深測定のモニタリング

Bコース（3名）

- ・ 沿岸域、海洋のモニタリング
- ・ 水質、生物、流況のモニタリング

【その他】

今回は10月頃に大阪公立大学杉本キャンパスにて第2回担当者会議を開催

質疑は以下の通り

—インボイスの関係で税額の表記が必要になるため、参加費の税抜き価格に小数点以下の値が出ないような価格設定にしてほしい⇒承知した。

—全体で8人という計画ですが、講師の数が少ないのでは？⇒検討する（会議後に遠藤先生から連絡があり、講師は、共通2名、海岸6名、水工6名の合計14名である。）。

■ Coastal Engineering Journal について (内山)

小委員長：内山，副小委員長：有働，高木

委員：渡部，田島，下園， Suppasri, Khayyer, 田村，織田，鈴木； 原田，今井，加藤，木原，三井，陸田，高川，三戸部，伴野，志村，Adriano，五十里，猿渡，鶴田

以下の報告があった。

- ・インパクトファクターが 3.289 から 2.4 に低下
- ・2020 のデジタルコンテンツ重視導入効果の期限切れと年間 Citation 数の漸減 (1127→1087)
- ・2019 年までは IF2 点前後だったので戻ったとも言える。
- ・引用と被引用の関係が非対称、Coastal Engineering、CEJ など coastal 系や geophysics、natural hazard 関係の引用が多いが、被引用が多いのは Ocean Engineering。Geophysics や natural hazard 関係のジャーナルに引用されるようになると IF が上がるのではないかと聞いている。そういう場合はぜひ内山に連絡してほしい。
- ・Special Issue Progress of Ocean Wave Measurements は港空研の田村さんと US Army Corp.の Collins さんに企画いただいたものですでに何本かオンラインになっている。
- ・最近採択された一発大波を測るブイを紹介した論文がスクリップスのグループから出ていて、世界的に有名なサーファーのインスタグラムで紹介されたことで論文の閲覧数もものすごく伸びています。皆さんもし知り合いに世界的なサーファーなどいましたらぜひインスタでフォローするようにお願いしてください。
- ・次の特集号について：CEJ 副小委員長の有働先生に加えて産総研と東大新領域を兼任されている田村亨さんにゲストエディターをお願いして海岸地形に関する学際的な特集号を組む予定です。特に地形や漂砂について研究をされている方はぜひ投稿を検討ください。
- ・今年は 8 月 28 日時点で 105 編の投稿があった。非常にいろいろな国から投稿されるようになってきている印象。アルジェリア、バングラデシュやベナンからも。相変わらず中国やインドが多いが、珍しいところではカザフスタンやマレーシア、タイなどからも出ていて、読者層が増えてきている印象。
- ・褒賞関係 (6 月の海岸工学委員会にて承認済み)

Coastal Engineering Journal Award 2022

Large-scale physical modeling of broken solitary waves impacting elevated coastal structures. Clemens Krautwald, Hajo Von Häfen, Peter Niebuhr, Katrin Vögele, David Schürenkamp, Mike Sieder & Nils Goseberg, *Coastal Engineering Journal*, **64:1**, 169-189, 2022.

CEJ Citation Award 2022

1) Future changes in extreme storm surges based on mega-ensemble projection using 60-km

resolution atmospheric global circulation model, Nobuhito Mori, Tomoya Shimura, Kohei Yoshida, Ryo Mizuta, Yasuko Okada, Mikiko Fujita, Temur Khujanazarov & Eiichi Nakakita, *Coastal Engineering Journal*, **61:3**, 295-307, 2019.

2) Experimental study on the hydrodynamic impact of tsunami-like waves against impervious free-standing buildings, Davide Wüthrich, Michael Pfister, Ioan Nistor & Anton J. Schleiss, *Coastal Engineering Journal*, **60:2**, 180-199, 2018. (CEJ Award 2018)

JAMSTEC 中西賞推薦論文（決定）

Future changes in typhoons and storm surges along the Pacific coast in Japan: proposal of an empirical pseudo-global-warming downscaling, Masaya Toyoda, Jun Yoshino & Tomonao Kobayashi, *Coastal Engineering Journal*, **64:1**, 190-215, 2022.

CEJ Reviewer Award 2022

Miguel Esteban, Eiji Harada, Shigeru Kato, Yukinobu Oda, Benedict Rogers, Takenori Shimozono, Tomoya Shimura, and Yun-Ta Wu

- 4月の幹事会で審議，6月の海岸工学委員会で承認
- CEJ公式HPにて公表（CEJ小委員長）
- Reward：T&Fから著者へ振り込み依頼（CEJ小委員長）

【今後対応が必要】

- 盾（各賞1台：2022修正，市川商工←幹事長&土木学会那須さん発注）
- 賞状（人数分，土木学会で印刷，盾と一緒に土木学会那須さんより発送）
- Reviewer Award：賞状作成，電子送付（CEJ小委員長）

質疑は以下の通り。

ー開会式の時間的余裕がなく、受賞者のスピーチを削る可能性があるとのことだが、スピーチはあった方がよいのではないかと⇒開会式では受賞論文の紹介だけして、閉会式でスピーチするようにすればよいのではないかと⇒検討する。

ーCEJ AwardのKrautwaldさんはスピーチのビデオを用意すると言っており、Citation Awardの共著者のNistorさんは参加の意向と聞いている。スピーチはやはりあった方がよい。⇒CEJ関係および講演会の論文賞関係のスピーチも閉会式で行う方向で検討する。

ーOcean Engineeringからの引用が多い件について⇒実はOcean Engineeringに投稿して落ちたものが投稿されているものが多いのではないかと考えている。そうしたものは地盤の話やナビゲーションの話などが多く、CEJのスコップと合わないためにお断りするケースが多い。被引用が多いのでこうした方々も大事にした方がよい。スコップを広げてもいいかもしれないが、査読ができなくなってしまう。どうにかしたいところ。

■沿岸域研究連携推進小委員会（遠藤）

2023年度メンバー構成

小委員長：遠藤 徹（大阪公立大学）、副小委員長：片岡智哉（愛媛大学）

委員：石川仁憲（中央大学）、犬飼直之（長岡技術科学大学）、入江政安（大阪大学）、加藤茂（豊橋技術科学大学）、高山百合子（大成建設）、寺田一美（東海大学）、中下慎也（広島大学）、野志保仁（日本大学）、堀口敬洋（東京建設コンサルタント）、山野貴司（東洋建設）、山本吉道（東海大学）

顧問：灘岡和夫、青木伸一、重松孝昌、川崎浩司

2023年度第1回小委員会

【日時】2023年7月18日（火）14:00～15:00

【場所】Zoom

【参加者】青木、石川、入江、◎遠藤、○片岡、川崎、重松、高山、中下、堀口、山野、山本（敬称略、50音順、◎：小委員長、○副小委員長）

【議事】

- 2023年11月14日（火）15:00～16:30の海岸工学講演会企画セッションの内容について調整を行った。

遠藤小委員長の代理として中條先生より企画セッションについて以下の報告があった。

第70回海岸工学講演会での企画セッション

【日時】2023年11月14日（火）15:00～16:30

【形式】対面のみ

【内容】

15:00～15:20 過去20年間における沿岸域研究と沿岸域研究連携推進小委員会の関わり

講演者：青木（大阪大学名誉教授、元小委員会委員長）

15:20～15:50 関連学会における沿岸域研究の変遷

話題提供者：遠藤（大阪公立大学、現小委員会委員長）

15:50～16:30 パネルディスカッション

司会：遠藤

パネラー：石川（中央大学）、川崎（KK技術研究所）、中下（広島大学）、山本（東海大学名誉教授）

- 沿岸域を取り巻く今後の状況について、過去のトレンドを踏まえながら議論
- 今後の沿岸域連携推進小委員会の取り組みについて、連携の在り方やターゲットなどの議論

■広報・出版・WEB開催小委員会（荒木）

メンバー（2023年度体制）

川崎（顧問）、荒木（小委員長）、安田（副小委員長）、井手、北野、嶋原、
下園、鈴木、中村（友）、二宮、比嘉、Bricker、渡邊

広報関連

Web 情報の充実

海岸工学関連の本の紹介（2～3 ヶ月おきにアップデート）

海岸工学講演会関連、海岸工学論文集データベース、若手の会、見学会

小委員会、研究会の情報更新

災害 DB の順次補充

海岸工学の魅力、波浪や津波等の一般向け（検討中）

継続教育受講機会の拡大

土木学会・技術推進機構・継続教育実施委員会・e-ラーニング運営小委員会への参

加

出版関連

プログラム（DVD）の状況

スライドライブラリー「日本の海岸とみなと 第2集」の利活用（検討中）

WEB 開催関連

第70回海岸工学講演会・APAC 2023

- ・ 実行委員会とともにオンライン関連を担当
- ・ Zoom の設定と全体のスケジューリング管理
- ・ Zoom ビジネス（12 ライセンス程度）
参加者数 300 名、クラウド録画 200GB（程度）追加
- ・ 講演は録画するが、全参加者への後日の配信予定はない（ネットワーク環境等に起因する配信トラブル時のために録画する）
- ・ 1 ライセンスあたり ￥2,700 円
- ・ 追加クラウド容量（200 GB） ￥5,400
- ・ $¥2,700 \times 12 + ¥5,400 = ¥37,800$ 程度
- ・ オンライン開催のための会場係（Zoom ホストなど）の募集を 9 月下旬頃から行う予定

荒木小委員長より以下の報告があった。

- ・ 海岸工学関連の本の紹介がもうすぐ更新される予定
- ・ プログラムの広告はコロナで減少していたが 2023 年は回復傾向
- ・ 業界案内 20 社、プログラム広告 3 社、企業展示 3 社から申し込みをいただいている
- ・ プログラムには海岸工学委員会からのお知らせとして次回から査読システムが変わることなどを掲載予定
- ・ 海講 APAC 合わせて ZOOM ビジネスを 12 ライセンス契約予定

- ・参加者300名までなので2会場だけ500名に増加

■研究小委員会、研究会、WGの活動について（事前送付）

各小委員長より事前送付資料にもとづき以下の報告がなされた。

- ・沿岸まちづくりにおける経済的手法検討小委員会（安田）
 - ・2023/8/23-24 徳島県小松島海岸視察&県土整部と「気候変動を踏まえた海岸保全施設整備に関する意見交換会」を開催 県の技術検討会について説明を受け、リアルオプション理論の必要性とその方法について紹介
 - ・科研費 基盤研究（A）に採択、研究代表者：岡安先生
 - ・土木学会重点研究課題に応募予定
- ・沿岸災害デジタルツイン研究小委員会（越村）
 - ・6月22日 金沢大学で全体会議を開催
 - ・9月13-14日 徳島大学でデータ駆動科学集中講義
 - ・11月14日海講前日シンポジウムハイブリッド開催予定
 - ・土木学会重点課題に採択2023年1月～
 - ・7月 AOGS で企画セッションを開催

企画セッションについて幹事長より以下の補足がなされた。

- ・企画セッション1, 2, 3という形でHPが掲載済み。今後事前登録を土木学会サイトで立ち上げる
- ・講演者には論文集をダウンロード形式で配布（DVDやUSBはなし）
- ・DVDは別料金、参加登録した人のみ購入可能で後日送付

論文集について幹事長より以下の説明があった。

- ・土木学会論文集の17号特集号（海岸工学）という形で掲載されるように変わる
- ・英文論文は2号に入る。2号にはすべての特集号の英語論文が入る
- ・ヘッターとフッターに入っていた通しページが論文番号に変更される
- ・ヘッター
 - （現在）土木学会論文集 A1（構造・地震工学）, Vol.78, No.1, 1-12, 2022.
 - （今後）土木学会論文集, Vol.79, No.1, 22-00108, 2023.
 - （現在）Journal of JSCE, Vol.10, No.1, 1-12, 2022.
 - （今後）Journal of JSCE, Vol.11, No.1, 22-00014, 2023.
- ・論文番号のつけ方
 - 特集号 AA-BBCCC 形式

AA：投稿受付した年の下2桁の数字

BB：特集号の号

CCC:任意の論文番号（プログラム掲載の講演番号）

- ・フッター：原稿ごとに1ページから開始する。
- ・論文集の名前が変わることをCECOMに案内する。
- ・委員会HPから論文集No17へのリンクを掲載する。

企画セッション同時開催は分散できないか、会場の都合で無理、ハイブリッドは録画で後日視聴可能にしてはどうか。そうすると複数参加登録が期待できる。

質疑は以下の通り

ー企画セッションが3つ並列すると参加者を食い合うのでは？⇒直列や時間差をつけることも考えたが会場が1時以降しか準備が開始できないこと、5時までに終わらないと翌日からの設営ができないということで、並列にするしかないということになった。

ー3つ重なるのでハイブリッドで開催される企画セッションでは録画などがあとで視聴できるようにしていただけるとありがたい。そうすると、複数の企画セッションに申し込んでもおかしくなくなる⇒今後相談する。

以下の研究会については資料の事前送付により活動報告がなされた。

- ・波動と地盤の複合場における地盤材料の取扱方法に関する研究会
- ・沿岸域における気候変動適応策に関する研究会
- ・波動モデル研究会
- ・地域研究活性化WG

■特命WG

各WG主査より以下の報告があった。

- ・サーバーセキュリティ対策特命WG（川崎）

メンバー

川崎浩司（KK技術研究所）（主査）、
北野利一（名古屋工業大学）、下園武範（東京大学）、
中村友昭（名古屋大学）、比嘉紘士（横浜国立大学）、
井手喜彦（九州大学）

主な業務内容

- ・海岸工学委員会サーバーの管理・運用
- ・メールアドレス・メーリングリストの管理・運用
- ・新論文投稿・査読システムとの連携検討

現状

- ・CECOM の新アドレス決定、テスト運用中、9月中には立ち上げ予定

今後の主な作業

- ・新メーリングリストへの移行準備と作業

cecom@coastal.jp

- ・メーリングリストの管理・運用手引きの作成

現在、筑波大学・武若先生の方で、cecom に登録されているメールアドレスを整理していただいている（無効アドレスがかなりあり、作業に時間がかかっているとのこと）

- ・上記の作業を、2023年9月中旬までに完了を目指す
- ・新論文投稿・査読システムとの連携に関する検討

質疑は以下の通り

一 小委員会で ML を運用したい⇒作成可能。各小委員会や特命 WG 等から川崎主査にリクエストしてもらうようにする。

一 旧 cec の新アドレスを決める必要がある。Cecom と頭文字が重複すると誤送信しやすくなるので重ならないものにする

- ・海岸工学論文投稿査読新システム検討特命 WG（北野）

メンバー： 山城，下園，鈴木，中村，五十里，北野（敬称略）

- ・名古屋大学の中村先生に新たに入っていた
- ・クローンサイトを使って投稿や査読プロセスを実際に体験してみた
- ・以下の説明会を予定している

1) 2023年12月 論文集編集小委員会にて，副査向けの説明会（zoom）

2) 2024年1月 センター試験の翌週夕方に，投稿者向け説明会（zoom）

3) 2024年4月 幹事会前（案：12時半～），主査の詳細な説明会（zoom&）

→ いずれも録画を，対象者には閲覧可能（半年間）とする

講演会発表要旨査読と Jstage 論文査読の2段階の査読

EM に対応できないことは，Google フォームで行う。

- 1) 投稿者には，講演会発表要旨査読の要旨の登録は，Google フォームで行う。

この時，著者情報，奨励賞向けの生年月日，論文分類（査読ならびにプログラム作成）も登録。そして，登録の写しには，P で始まる論文整理番号を付与する（この番号を EM 登録時の論文タイトルの頭に必ず付けていただく，一目判別できるように）Jstage 論文投稿の締め切り時に併せて，論文情報（CEJ，通常号などの投稿状況）や Jstage 論文を投稿しない場合は，しないことを登録（念のための確認用）。

- 2) 要旨査読は，主査のみで行う。スクリーニング（海岸工学講演会に相応しい内容

かどうか?のチェックで、点数は付けない)。Google フォームで行う。

3) Jstage 論文の査読は、基本、EMで行うが、主査は、点数の集計をGoogle Formで。投稿スケジュールはほぼ今年と同じ

著者が修正原稿をシメキリ前に提出した場合、主査は、スケジュールよりも早く修正原稿の確認&再査読を行ってもかまわない。その結果を著者に返す場合の日程には幅を持たせ、その後のプロセスのシメキリまでの期間は、不公平の無いように、同じ2週間とする。

* 第1段査読を論文発表査読、第2査読をJstage論文審査と名称を変更。

→ 論文発表審査はGoogleFormにて主査ならびにcecでスクリーニング(論文番号付与)

→ Jstage論文審査をEMで実施。(論文発表審査の要旨の評点は付けない)

* 幹事/担当編集員/査読者は、EMでの副小委員長/主査/副査(2名)に対応

* 幹事長は、各論文に主査と副査(2名)を割付ける。

副小委員長は、担当編集員(主査)をEMに登録(小委員長と幹事長が確認)

担当編集員(主査)は査読者(副査)をEMに登録。と同時に、幹事長は、論文ならびに主査副査全てをidに変換した表を作成し、それを査読者に共有。

(これは、担当漏れを防ぐためであり、一括送信のためid化。

主査に送るものと副査に送るものは分ける。主査には、副査に送ったものを共有しない)

* EMでの論文評点は通常号と同じ。4段階合計16点とする(従来5段階20点)。なお、EMからの出力は、欲しい形で得られるようでは無い(DB形式?)ので、主査には、GoogleFormでの報告を求める。

* EMではスケジュール管理はできない。

査読者から著者への報告、著者からの修正に対して、デッドラインを決め、

早期提出/早期返答で、主査ならびに著者は先着順に処理をして良い。

ただし、著者には「受け取ってから2週間以内に」などと統一する。

(1年目)なるだけ従来と同じスケジュール(大きな変更が無い)ように。

(2年目以降で)査読が原則2巡できるようなスケジュールを組む。

第1段が簡素化する分、3月中旬に決定。本論文の提出締切を4月末とする。

いずれの場合も主査の人数を増やす必要がある。

* 現在稼働しているEMのクローンサイトでの検証(8月実施/2024年6月1日まで延長)。

北野WG主査よりEMの画面が示され、主査が副査を登録する際の操作手順やマニュアル類について紹介がなされた。

質疑は以下の通り

—締め切りが個別に変わるということだが、リマインドは主査がするのか？⇒EMでどこまでカスタマイズできるかわからないので確認が必要⇒主査の人はリマインドの設定ができると思うが、何月何日にリマインドを出すという設定ではなくて、締め切りの何日前という設定しかできないと思われる⇒1年目は混乱を避けるためにも受け取ってから順番に処理するというのはやめて一斉にMLでリマインドする形の方が安全のように思う。

—Google フォームを併用するが、北野先生のアカウントなどでフォームを作ってしまうと引き継ぎが難しくなる⇒個人アカウントではなく、海岸工学委員会用のアカウントでつくるようにする。⇒引き継ぎはメールアドレスとパスワードだけではなく、二重認証の携帯電話番号の変更も必要なことに注意、ZOOM と Google のアカウントが紐づいているので、両方で認証が必要。

—主査が副査に査読依頼をする形になるが、そこで拒否されたらどうするのか？⇒これまでと同様に事前に査読者に査読の可否について問い合わせしておき、査読可と回答したひとに担当してもらうこととし、査読を拒否しないように事前に周知しておく。

—副査の登録の際には EM に登録したアカウントの情報が必要なので、アカウント名と保険としてメールアドレスを把握しておくようにする

—査読に結構シニアな先生が多くなっている⇒入れ替えて年齢層を下げる検討が必要ではないか。⇒時間が押しているなので、なにか意見があれば幹事長にメールをお願いします。

—EMの一般的なことと、海岸工学の査読の独自の対応の説明を分けて説明する。

・海岸工学2040特命WG（渡部）

- ・これからの海岸工学のフロンティア
- ・学会が考える研究の方向性

今後の予定

- ・WGメンバー選出（公募を基本＋年齢構成，分野を考慮して依頼）
- ・自由に意見交換からスタート
- ・分野における課題の抽出と分類，新たに必要分野
- ・分類，分野ごとの目標設定
- ・取りまとめ

説明・質疑は以下の通り

—若い人に入ってもらっていろいろな話のなかで現状の問題点やこれからの新しい分野、フロンティアについてざっくばらんに話を進めていく予定

—研究が細分化している割には大分類は変わっていないということもあり、次の15年か20年で何があるのか、議論しても良いのではないか。活性化につながると良い。あわよくばまとまったものを科学技術審議会とか何らかの形で出せると良いが、まずは自由に議論していただければと思う。

・省庁連携特命 WG (田島)

目的

- ・海岸関連省庁のミッションや現業, 課題, ニーズを共有する
- ・学会として取り組むべき研究課題や発展させるべきシーズ, 技術開発について議論, 整理し, 取りまとめる.
- ・官学産の(若手)技術者・研究者の交流促進・学会活性化

メンバー(主査:田島)

委員・幹事からの推薦(自薦含む)により, 地区・職域のバランスを勘案して選出
学生参加?

進め方

- ・ハイブリッドで数回のワーキングを開催.
- ・各ワーキング毎に, 1~2 の省庁の方々から話題提供いただき, 質疑, 上記の内容について議論を深める.
- ・各回の内容をそれぞれ整理し, 最後に全体を俯瞰する.

成果

- ・海岸工学 2040 と連携して前日シンポジウム?企画セッション?報告書?

質疑は以下の通り

一海岸と関係ない省庁、民間、との連携は? IT やセンシング、モニタリングなど他分野にもコミュニティが広がると良いように思うがいかがか? ⇒少し WG 設置のイメージと異なる。海岸工学 2040 の方は 2 年くらいで議論をしてまとめるというイメージ、省庁連携の方は、省庁間でばらばら感がある部分の連携をすることと、ある程度年齢がいかないと付き合いがないことがあるので、少し年齢を下げて間を埋めるのが意図。こちらはどちらかという
と細く長くやるイメージ。

■その他

・CICHE-JSCE Joint WS @台北 (テーマ:再生エネルギー) 9月20日

- ・台湾土木学会 CICHE とのジョイントシンポジウム
- ・テーマは, Green Energies

海岸工学からは, 電力中央研究所の木原さんより,

「Current status of offshore wind power in Japan and CRIEPI metocean researches for designs and O&M (仮)」

水工学からは, 長崎大学 坂口先生より, 五島列島での新型小型タービンを用いた「潮流発電」の研究発表.

・ JSCE-CCES ジョイントシンポ（来年の春に延期）

下記の日程で、中国土木学会の方で、再度調整中

第一候補：4月24日（水）～28日（日）

第二候補：4月中旬＝4月17日（水）～21日（日）

いずれも標準的な日程として

1日目移動して、ホテルにログインして登録

2日目、3日目会議

4日目現場見学

5日目移動して帰国

と考えております。

若手の旅費補助も出す予定で、予算措置上に、少し準備が必要

土木学会国際センター、澁谷さん、党先生、（センター長 木村先生）

・ ICCE

ー2028日本に招致できないかという議論を始めている。だいぶお金がかかるので大変だが1994年の神戸以来30年近く日本でやっていない。仙台で来年やるつもりだったが手を下ろしてしまったので、フォローアップとして招致を検討している。開催予定地は大阪、京都、横浜、東京のいずれか。予算と会場次第なので、そこを調査中。1,2月くらいには申請書類を作る必要があるので引き続き相談させていただきたい。海岸工学委員会には間違いなく後援をお願いするとともに、実際やるとなるといろいろな方にお世話になると思うのでよろしくお願ひしたい。

以上